

種がアリウシャンのアッツ島に発見されたので報告した。雄器は知られているが、雌器も従って孢子体も知られず、また上記の分布型から考えても、本種がアッツ島に知られたことは同島のフロラの成立が新しくはないことを示すと思われる。本種と混生していたコケ類もこの考えを支持する。恐らくアッツ島は第3紀後半以降海浸、火山活動或いは氷河などのためコケ・フロラが絶滅するような事態は起らなかったであろう。

○地衣類思い出話 (2) (富樫 誠) Makoto TOGASHI: Miscellaneous notes on lichens or lichenological survey (2)

*Parmelia praesorediosa* Nyl. には五つの異名がある。最も古いこの有効名は 1891 年にシンガポール附近の標本で設定されたものだが、その第 1 の異名 *P. capitata* Lynge はブラジル産で 1914 年の発表であり、第 2 の異名は *P. sanctaecrucis* Vain. で西インド群島中のプエルトリコ諸島で採集され其発表は 1915 年であり、第 3 の異名は *P. neglecta* Asahina で台湾、来社産のものをタイプとし、第 4 の異名は *P. luzonensis* Räs. で Philippines 産がタイプであり第 5 の異名は *P. subcetrarioides* des Abbayes でアフリカ産のものがタイプとなって居る。要するに本種は Hale が云う様に汎熱帯性の種であるので、広く外国の標本に目を通して居ないとやゝもすれば新種として発表されてしまうのである。其後此の地衣は吾国中・南部で時々見附かったが何れも無子器であり、全形並に化学成分では *P. praesorediosa* に一致しても、何とかして孢子の大きさも随めたいのが朝比奈先生の御希望で、昭和 34 年秋も漸く深まった 11 月に行われた天草島の採集の一つの目的は此地衣の有子器品を捕えることであった。幸に天草島北端の富岡町では所々の石垣に本種を見付たので、目標をお寺の古い石塔に絞り遂に同地の鎮導寺の墓地でネパった末、タッター一枚ではあったが径 1 デシ位の筒体の中央に一個ではあるが完全な子器の存在を確認して凱旋した。